



平成 20 年 2 月 22 日

各 位

会社名 あいおい損害保険株式会社  
 代表者名 取締役社長 児玉 正之  
 (コード番号 8761 東証・大証・名証)  
 問合せ先 企業広報部 IR室長  
 成田 和広  
 経理部 主計グループ長  
 郷 英延  
 電話 03-5424-0101

業績予想(平成 20 年3月期 通期)の修正に関するお知らせ

平成 19 年 11 月 9 日に公表いたしました業績予想(平成 20 年 3 月期 通期)を下記の通り修正いたします。

1. 平成 20 年 3 月期 通期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)業績予想の修正

(1) 連結

(単位:億円)

	経常収益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 19 年 11 月 9 日公表)	11,200	200	165	22 円 46 銭
今回修正予想 (B)	11,600	△110	△40	△5 円 44 銭
増 減 額 (B-A)	400	△310	△205	△27 円 90 銭
増 減 率 (B-A)／(A)	3.6%	△155.0%	△124.2%	△124.2%
(ご参考) 前期実績(平成 19 年 3 月期)	10,899	272	161	22 円 04 銭

(2) 個別

(単位:億円)

	正味収入 保険料	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 19 年 11 月 9 日公表)	8,580	300	235	31 円 99 銭
今回修正予想 (B)	8,550	10	50	6 円 81 銭
増 減 額 (B-A)	△30	△290	△185	△25 円 18 銭
増 減 率 (B-A)／(A)	△0.3%	△96.7%	△78.7%	△78.7%
(ご参考) 前期実績(平成 19 年 3 月期)	8,512	298	188	25 円 69 銭

2. 修正理由等

平成 19 年 12 月末のサブプライム関連の評価損等は、クレジットデリバティブ(ABS-CDO)が 645 億円、SIV債券が 30 億円、合計で 675 億円となっておりますが、これに直近の株式相場等の資産運用環境の変化、およびサブプライム関連投資を取り巻く環境が、引き続き悪化傾向にあることを踏まえて、通期の業績予想を修正するものです。業績予想の詳細等につきましては、別紙「サブプライム関連投資の状況」をご参照下さい。

なお、平成 19 年 8 月 22 日に発表いたしましたとおり、当社の連結子会社である「あいおい生命保険株式会社」において、財務基盤の強化等を目的として、標準責任準備金の一括積立を実施し

たことなどにより、前記、連結の業績予想は、個別の業績予想を下回っております。この一括積立による連結決算上の負担は、今年度の一過性のものであり、次年度以降、あいおい生命社は、当社の連結決算への利益貢献が見込める会社となります。

更に、本日、平成 20 年 2 月 22 日付け公表の「平成 20 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況」に記載のとおり、平成 19 年 12 月末における連結ベースの純資産は 5,277 億円、うち株主資本は 3,371 億円と、引き続き強固な財務基盤を維持しております。

また、期末配当については、前年同様、1 株当たり 10 円を予定しており、配当予想の修正はありません。

※上記業績予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上

## サブプライム関連投資の状況

### 1. 投資状況

平成19年12月末におけるクレジットデリバティブの想定元本2,128億円のうち、サブプライムローンを一部含むABS-CDOは、1,062億円であります。また、その他に同関連投資として、SIVが発行する債券を40億円保有しております。

### 2. 信用リスクの状況

当社が投資しているABS-CDOは引き続きスーパーシニアと高格付を維持しておりますが、裏付資産のABSについて大量の格下げが発生したことやABS-CDOを巡る環境が著しく変化したことなどにより、ABS-CDOの一部に将来、元本毀損に繋がる可能性が生じてきました。

### 3. 評価損の状況等

平成19年12月末の評価損等は、ABS-CDOで645億円、SIV債券で30億円、合計で675億円となりました。なお、元本毀損による実現損はございません。

上記の評価損等につきましては、利息及び配当金収入並びに金利低下局面を捉えた有価証券売却益等の増加により吸収しております。

(単位: 億円)

	平成19年9月末		平成19年12月末	
	想定元本・契約額	評価損等	想定元本・契約額	評価損等
ABS-CDO	1,114	252	1,062	※ 645
SIV債券	40	-	40	30
合計	1,154	252	1,102	675

※平成19年12月末のABS-CDOの評価損等には、解約に伴う実現損44億円を含んでおります。

### 4. 通期業績予想への影響等

平成20年1月以降も引き続きサブプライム関連投資の圧縮を進めており、現時点でのABS-CDOの想定元本は約680億円まで減少しております。更に、ABS-CDOの時価が引き続き下落傾向にあり、市場の大きな回復が見込めないことから、平成20年3月までの時価推移を保守的に見積もることにより、想定元本に対して約9割の評価損を見込みました。また、SIV債券につきましては、既に全額を売却しております。

上記対応の結果、実現損と評価損の合計920億円を、今年度の業績予想に織り込みました。

### 5. 次年度(平成21年3月期)への影響

このようにサブプライム関連投資の評価損等を織り込むことにより、平成20年3月期は減益予想となりますが、当社におけるサブプライム問題は今年度でほぼ終結することから、次年度は平成19年3月期の利益水準まで回復する見込みであります。